

## 陳述書

2016年4月29日

私の名前は・・・・・・・・・・で、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程の修了生です。私は2011年の9月以来、技術・革新的経営の博士課程演習に参加してきましたが、指導教官から私の政策研究にシステムダイナミックスの方法論を使用するようにアドバイスされました。このアドバイスにもとづき、私は山口薫教授の指導と支援を仰ぐことにしました。なぜならば、同教授はこの分野における国内はもとより国際的にも第一人者の一人と言われる専門家だからです。彼は親切にも私の懇願を受け入れてくれて、それ以来私の博士課程研究の共同指導教授となってくれたのみならず、2013年の4月からは主指導教授となってくれることになっていました。

しかしながら山口教授は、2013年の3月に突如同志社大学を解雇され、その結果、私は研究続行がほとんど不可能な状態に追い込まれました。何故ならば、第1にシステムダイナミックスを専門とする他の教授は関西地方にはおらず、第2に、この段階で研究手法を変更することは時期的にできなかったからです。そこで私は、こうした私の困難な状況を考慮してくれるように、山口教授を含めて、多くの日本の教授にメールで懇願しました。私がコンタクトを取った全ての教授の中で、山口教授は親切にも、そして寛大にも私の研究をボラアンティアとして無料で指導してくれることに同意してくれました。

山口教授の研究指導は、2013年の10月から2016年3月の卒業までに続きました。この間におけるその指導内容は、毎回3～4時間にもわたる集中討議やシステムダイナミックスのソフトウェアの実践的な訓練やガイダンス等でした。同時に同教授は、国内や米国における国際会議での私の全ての報告論文について厳格なフィードバックをしてくれました。特に同教授は、2015年7月に米国マサチューセッツ州ケンブリッジで開催された第33回国際システムダイナミックス学会で、私との共著の論文（添付資料：訳者注）を親切にも第一著者の私に代わって研究報告までしてくれました。

従って、私にとって、博士論文で用いた研究方法に対して揺るぎない理解と信頼が得られるようになったのは、同教授の支援のおかげであるということが決定的に重要となりました。加えて、博士号の学位を授与されるまで私の研究の進展を導いてくれた同教授の指導はきわめて重要でした。私は同教授の真摯な努力、忍耐、そして傑出した支援から受けた恩恵に対して心から深く感謝しています。このような親切な行為に対して今後も感謝の念を持ち続けたいと存じます。

上述したような理由で、同教授の特段の指導と支援について正直に説明するために、ここにこの陳述書を提出することが私の義務であると確信します。

・・・・・・・・・・、博士(Ph.D.)

(訳：弁護士 辰巳 裕規)